

理工学部同樹会報

第24号

発行日 令和6年3月31日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
理工学部同樹会(理工学部内)
題字 同樹会長 千葉 信行
印刷所 ㈱ 笹 軽 印刷

南極の魅力

東京大学大気海洋研究所 教授／海洋研究開発機構地球環境部門
招聘上席研究員／第66次南極地域観測隊 隊長兼夏隊長

原田 尚美

(平成元年 理学部地球科学科卒業)



この度は、同樹会報に執筆の機会を与えていただきましてありがとうございます。私は、1985年理学部地球科学科に入学、1989年に卒業と4年間、弘前大学にお世話になりました。出身は北海道苫小牧市です。1991年、第33次南極地域観測隊に女性としては2番目の隊員として参加。2018年、第60次隊では副隊長をつとめました。南極のみならず、北極での研究も行っており、専門は生物地球化学、古海洋学です。現在、東京大学海洋研究所につとめています。2024年12月に出発する第66次南極地域観測隊では、初の女性隊長となり、2025年4月に帰国の予定です。

そもそも南極に興味を持つようになったきっかけは学部の卒業論文の指導教官だった中谷周先生の南極観測の話聞いてからです。中谷先生は外国の隊の南極地域観測に参加し、ドライバレーなどの湖沼調査の経験をお持ちでした。先生から南極のフィールドワーク(野外調査)の面白さ、過酷さ、景色の美しさなどよく話を聞かせていただき、いつか行ってみたいと思っていました。大学院は弘前大学から何人かの先輩方が進学し、極域観測にも参加されていたことから南極へチャレンジする近道かも？と、名古屋大学大学院理学研究科大気水圏科学専攻課程へ進学しました。

博士前期課程(修士課程)が終わり、チャンスは突然やってきました。博士後期課程1年の時、国立極地研究所の福地光男隊長から、南大洋でセジメントトラップ観測を実施したい。ついては、支援してくれる学生を出してくれないかと、私の指導教官だった半

田暢彦先生に連絡が入りました。セジメントトラップとは、海洋中にバケツのようなものを設置し、海洋中を沈降していく粒子を捕集する観測機器です。沈降する主要粒子は海洋プランクトンが作り出す有機化合物粒子が主体です。この粒子のバイオマーカーとよばれる生物特有のさまざまな有機化合物を化学分析することで、どのような季節にどんな生物がどのくらいの有機物を生産しているか？を時系列に明らかにすることができます。半田暢彦研究室は、セジメントトラップを使った海洋物質循環研究の国内有数の研究室だったことから声がかかったのだと思います。先生は、まず男子学生に声をかけましたが、全員「行きたくない」という返事。そばで聞いていた私は声をかけられてもいないのに、すかさず立候補。半田先生からは「南極の調査は博士論文の内容と全く関係がない」ことを理由に大反対されました。私は、自由が効く学生の間、できるだけ多くフィールドワークの経験を積みたかったため、博士論文の他に南極の調査結果でも論文を書いてから修了することを約束し、先生を説得。先生は渋々、承知してくれました。私は踊り出したい気分でした。

そもそも日本が南極地域観測を始めたのは1956年。第1次隊がようやくたどり着いたオングル島という南極大陸近くの島を拠点に選び、昭和基地を建設。それから65年が過ぎ南極でも大規模な基地になりました。そんな歴史ある昭和基地での初の南極の印象は耳鳴りするほど“ただ無音”。これに驚きと共に感動を覚え

ました。そんな初めての南極地域観測から33年が経ち、三たび、南極へ行く機会を得て大変ワクワクしているとともに大きな使命感を感じています。というのも極域は温暖化の最前線だからです。2023年は大変暑い1年となり、日本でも酷暑が日常になったことを皆さんも感じていらっしゃると思います。そして桜の開花や満開時期も早まっています。私が弘前大の学生だった頃、満開はゴールデンウィークでした。ところが今では4月中旬～下旬が開花・満開の時期になっています。

北極海などでもフィールドワークを約30年続けてきましたが、近年、急激な変化が起きていると感じます。北極海では「海水がほとんどない」と目を疑う場面に遭遇します。国連の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」の報告書によると、この海水が夏季に消滅するのは今世紀半ばと予測していますが、それより大幅に早まっても不思議ではないというのが観測の結果です。

一方、南極では、大陸からせり出している棚氷の底辺部は海水と接していますが、暖かい海水の影響でそれが解け始めています。すると、川の水のように、標高の高い内陸部にある巨大な氷河「氷床」が海の方に押し寄せます。そこで暖かくなった海水と触れ、さらに解けていくという悪循環に陥る可能性があります。南極の氷がすべて解けると海面が数十メートル上昇すると予測されています。たとえ、そこまでの状況に達しなくても、南極の氷床融解がもたらす海面上昇は現実化しかねない恐怖を覚えます。私たち日本人だけでなく、多くの人々が沿岸部で生活しているだけに、この事態は軽視できる状況にはありません。

懸念されるのは、熱波などの異常気象や災害だけではなく、私の大好きなサケは今シーズンのみならず、海水温上昇のためか記録的な不漁が続いています。北海道の「新巻ジャケ」といった郷土料理など食文化への影響も懸念されます。夫と一緒に40代で始めた登山が趣味で、日本百名山のうち89座を登頂しました。幌尻岳 (北海道) などの高山植物に心を癒やされました。気候変動による生態系破壊は、そんな機会を奪います。国連のグテーレス事務総長がいう「地球沸騰化」を真剣に回避する必要があります。異常であることに慣れず、危機意識を維持することが肝要です。

昭和基地は、東南極に位置し、1年を通じて周囲を厚い海水に囲まれたアクセス困難な場所です。その結果、周辺1000キロメートル以内には通年の常設基地はなく、国際的に貴重な観測拠点として発展してきました。また、地表面の7割を占める海の温暖化現象の実態解明が重要になっています。今回の第66次隊では、棚氷とその周辺環境の相互作用や私の研究テーマでもある海洋中の炭素をはじめとする物質循環やプランクトンなどの生態系の動態研究について、昭和基地周辺を含む東南極の海域で観測する予定です。異変の早期発見と社会への警鐘につなげられればと思います。

また、他にも重点観測として、昭和基地から約1000キロメートル離れたドームふじ基地周辺で、約100万年前の氷を掘削する研究が進行中です。私が2018年に参加した第60次では、掘削点選定のための観測調査が実施されていました。8年ほどの長い準備期間を経て第66次からいよいよ本格的な深層掘削が始まります。氷に閉じ込められた気体の分析から過去の二酸化炭素濃度に加え、温暖だったか寒冷だったかを推計できます。気温上昇の原因は人間活動に伴う温室効果ガス排出だけではなくありません。地球と太陽の位置関係に伴う自然変動要因もあります。現代は40万年に一度と言われる暖かい時代が長く継続する「スーパー間氷期」です。100万年分の記録を入手すれば、現在の気温上昇のうち、人間活動と自然変動の寄与がそれぞれどの程度かを分析する手がかりになります。その成果は、効果的な対策に反映させることができます。

最後に、女性初の隊長としての抱負について、よく聞かれるので少しお話ししたいと思います。初期の南極観測は、厳しい自然に向き合う探検の様相を呈し、いわゆる男社会でした。今もブリザードなど死に直面する厳しい世界ですが、基地の環境が整備され、女性を含め山岳経験のない多様な人材が参加できるようになりました。海外では約3割が女性と言われていますが、日本でも徐々に増えており、第66次では2割ほどを占めます。南極は有事に外からの緊急応援を得にくい場所だけに、隊員間の相互信頼は極めて重要です。そして、多様性あふれた組織には活力や耐性があると思います。少数派の経験を生かし、小さな声に耳を傾けて個々の能力が十分発揮できるように尽力したいと思います。

定年退職教員

令和5年度末をもって、電子情報工学科 小野口一則教授がご退職されます。ご退職の先生におかれましては、永年にわたる教育研究活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。



退職にあたって

理工学研究科（電子情報工学科）

小野口 一 則

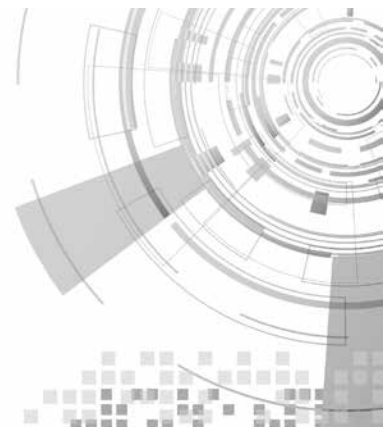
20年間電機メーカーの研究所に勤めた後、本学に20年間お世話になりました。太平洋沿岸の雪が滅多に積もらない所ばかりで暮らしていたので、着任した最初の冬は弘前の雪の多さにびっくりしたのを今でも覚えています。雪が連日降り積もり、除雪車が残っていた雪の壁を早朝から片付けなければ駐車場から車が出ず、出勤できなくなるとは思っていませんでした。若い頃はスキーが好きで方々のスキー場へ滑りに行ったのですが、雪掻きに疲れ、近くにスキー場があるにも関わらず結局一度も行きませんでした。しかし、冬場は厳しい反面、夏場は涼しく、周辺に十和田湖、八甲田山、八幡平など格好のドライブコースがあるため、車の運転が好きで、研究対象が車載画像認識（車に搭載したテレビカメラで車両周辺の状況を把握する技術）である私にとって趣味と実益を兼ねた最高の場所だったとも言えます。週末の度にフロントウィンドウにビデオカメラを取り付け、これら山道の走行画像を収集したことが懐かしく思い出されます。

車載画像認識に関する研究は、30年程前に始めました。当時は衝突防止や車線逸脱の回避など安全運転を支援するための技術開発が主目的であり、最終的な目標として自動運転の実現を掲げてはいましたが、アルゴリズムの認識精度やハードウェアの処理速度を考えると市販車での実現はかなり先のことではないかと考

えていました。しかし、現在、海外では無人タクシーが商用化されており、日本でも特定の条件下で自動走行する「レベル4」車両の実用化が間近に迫っています。ニューラルネットワークやハードウェアの急速な進歩がこれらを後押ししたと考えられますが、技術は急速に進歩しておりSF映画の世界と考えられていたものが、今後、どんどん実現されていくと思われま

す。このため、学生の皆さんは無理だと諦めないで可能性を信じ、チャレンジしていく精神を大事にして欲しいと思います。

最後になりますが、在職中は、多くの方々に大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げますとともに、弘前大学のますますの発展を願っております。



理工学部と理工学研究科の就職状況

令和4・5年度 理工学部就職対策委員会委員長

佐川 貢 一

理工学部/大学院理工学研究科博士前期課程の就職率は、令和4年度(令和5年3月卒業/修了)が97.2%/100%、令和3年度が97.8%/100%、令和2年度が99.5%/97.8%、令和元年度が98.6%/98.9%と、高い数値を維持しております。理工学部の大学院進学率は、令和4年度が43.4%、令和3年度が42.5%、令和2年度が41.1%、令和元年度が34.3%となっています。

今年度の就職活動については、新型コロナウイルスの影響も少なくなり、対面形式で会社説明会や就職活動の面接を行う企業が多くなってきていると感じます。また、コロナ禍以前と比較し、これまでは求人への依頼がなかった企業からの求人が多くなっており、学生の争奪戦が激しくなっていると感じております。そのためか、最近では学部3年生や大学院1年生を対象として、3月以前に早期選考を実施する企業が増加傾向にあり、学生の学業への影響を懸念しております。しかし、特に理工系の企業については、近年あらゆる分野で人手不足が問題となっており、前述のように求人数が増加傾向にあることから、学生は慌てることなく、余裕をもって就職活動に取り組んでほしいと考えております。

ここで、キャリア教育に関して弘前大学で行っている支援についてご紹介します。弘前大学キャリアセンターでは、求人情報の配信の他、進路相談、就職先企業の提案、エントリーシートの書き方の指導、個人・集団・Web面接の対応方法など、きめ細かい指導が行われております。また、就職に関する講演会とし

て、例えばインターンシップ研修会、官公庁業界説明会、公務員講座、論文試験対策講座、業界研究会、一般知識講座、志願動機作成講座などの他、マナー・着こなし講座まで行われています。

理工学部就職対策委員会では、令和5年4月には、大学院1年生を対象とした就活オリエンテーションが行われました。進学したばかりの1年生が対象となっていますが、夏のインターンシップへの参加や、就職活動の準備の仕方について、実際に活動を開始する前にガイダンスを行う必要があることから実施されました。12月には、「本学博士後期課程修了生による進路ガイダンス」と「企業人による講演会」を行いました。何事もその分野のプロフェッショナルとなるためには、継続することの重要性が紹介されました。令和6年1月には、本学大学院修了生による「OB・OG講演会」を行いました。講演では、やりがいのある仕事や責任のある仕事を任されることの重要性などについて紹介されました。

令和4年度の理工学部卒業生の進路集計を表1に、大学院博士前期課程修了生の進路集計を表2に示します。就職先の企業名など詳細につきましては、理工学部/大学院理工学研究科のホームページ (<https://www.st.hirosaki-u.ac.jp>)、教育推進機構キャリアセンターのホームページ (<https://career.hirosaki-u.ac.jp>)でもご確認いただけます。今後も、大学・学部として学生の就職活動をしっかりとサポートしていく所存です。何卒よろしくごお願い申し上げます。



理工学部ホームページ



キャリアセンターホームページ

表1 令和4年度(令和5年3月)理工学部卒業生の進路集計

| | 数物 科学科 | 物質創成 化学科 | 地球環境 防災学科 | 電子情報 工学科 | 機械 科学科 | 自然エネ ルギー学科 | 合計 |
|---------------|-----------|-------------|--------------|-------------|-----------|---------------|-----|
| 進学 | 20 | 29 | 15 | 20 | 52 | 13 | 149 |
| 農業・林業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建設業 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| 製造業 | 3 | 6 | 5 | 9 | 10 | 1 | 34 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 4 |
| 情報通信業 | 6 | 0 | 5 | 15 | 5 | 3 | 34 |
| 運輸業・郵便業 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 卸・小売業 | 3 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 9 |
| 金融・保険業 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 不動産業 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 飲食店・宿泊業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 医療・福祉 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 公務員 | 10 | 6 | 22 | 4 | 3 | 1 | 46 |
| 教員 | 9 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| その他の産業 | 3 | 4 | 5 | 2 | 3 | 3 | 20 |
| 未就職・その他 | 9 | 2 | 1 | 4 | 1 | 2 | 19 |
| 計 | 70 | 53 | 61 | 55 | 76 | 28 | 343 |

※機械科学科には知能機械工学科を含む。

表2 令和4年度(令和5年3月)大学院博士前期課程修了生の進路集計

| | 数物科学 コース | 物質創成 化学コース | 地球環境防 災学コース | 電子情報 工学コース | 機械科学 工学コース | 自然エネ ルギー学コース | 合計 |
|---------------|-------------|---------------|----------------|---------------|---------------|-----------------|-----|
| 進学 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 6 |
| 建設業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 製造業 | 2 | 15 | 2 | 6 | 33 | 2 | 60 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 7 |
| 情報通信業 | 7 | 1 | 2 | 13 | 3 | 0 | 26 |
| 運輸業・郵便業 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 卸売業・小売業 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 金融・保険業 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医療・福祉 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 教員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 公務員 | 0 | 1 | 4 | 0 | 1 | 0 | 6 |
| その他の産業 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 10 |
| 未就職・その他 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 計 | 17 | 23 | 10 | 24 | 41 | 5 | 120 |

※数物科学コースには物理科学コースを、自然エネルギー学コースには新エネルギー創造工学コースをそれぞれ含む。

令和4年度

理工学部卒業・理工学研究科修了 祝賀会

令和4年度学位記授与式と同日の令和5年3月23日に、令和4年度理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催することについて検討いたしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念が残るとの判断から、社会へ羽ばたく新同樹会員へのエールを送れず大変残念ではありますが、祝賀会を中止することといたしました。これで4回続けての中止となりました。再開を待ち望むばかりです。

学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（令和5年2月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）

西田竜也（1年）
応用物理学会東北支部学術講演会 講演奨励賞

■理工学研究科博士後期課程

稲川正浩（2年）
2022年度計測自動制御学会 学術奨励賞 技術奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（数物科学コース）

佐藤聖能（2年）
令和4年度日本表面真空学会東北・北海道支部学術講演会 学生講演賞

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）

楠美京佑（2年）
令和4年度弘前大学学生表彰

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

佐々木建（2年）
令和4年度弘前大学学生表彰

■理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）

工藤遼太郎（2年）
令和4年度電子情報通信学会東北支部 優秀学生表彰

■理工学部（電子情報工学科）

小芝宏樹（4年）
令和4年度電気学会東北支部 優秀学生賞

■理工学部（電子情報工学科）

佐藤和樹（4年）
情報処理学会東北支部 学生奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

木村柚葵（1年）
第23回日本伝熱学会東北支部 学生発表会 優秀プレゼンテーション賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

浜谷昌大（1年）
日本機械学会第35回バイオエンジニアリング講演会 優秀講演賞（ポスター発表）

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

高木啓佑（1年）
計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（数物科学コース）

目黒晴輝（2年）
第26回XAFS討論会 学生奨励賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

坂東航（1年）
日本金属学会2023年秋季講演大会 優秀ポスター賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

足立龍斗（2年）
第22回日本金属学会東北支部研究発表大会 優秀ポスター賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

中谷芹（1年）
第22回日本金属学会東北支部研究発表大会 優秀ポスター賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

吉田優真（2年）
第61回燃焼シンポジウム「美しい炎」の写真展 優秀作品賞

■理工学部（地球環境防災学科）

小笠原美紀（4年）
日本質量分析学会同位体比部会2023 学生発表賞

■理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）

島元健（1年）
第2回北東北地区大学高専交流会 最優秀発表賞

■理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）

飯塚大登（2年）
2023年度材料技術研究協会討論会 優秀口頭講演賞

■理工学研究科博士後期課程

Viridi Chaerusani（2年）
International Symposium on Chemical Engineering 2023, Special Oral Presentation Award

■理工学研究科博士後期課程

Feng Changrui（3年）
International Symposium on Chemical Engineering 2023, Outstanding Oral Presentation Award

■理工学研究科博士後期課程

Aghietyas Choirun Az Zahra（3年）
The 11th Asian Conference on Biomass Science, Excellent Oral Presentation Award

■理工学研究科博士後期課程

今津毅士（1年）
第29回渦糸物理ワークショップ 学生優秀発表賞

令和4(2022)年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

令和5年3月31日

◆一般会計

| | | |
|-----------|---------|-----------|
| 収 入 | 支 出 | 繰 越 |
| 2,737,074 | 639,854 | 2,097,220 |

◎収入の部

(円)

| 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 | 摘 要 |
|-----------------|-----------|-----------|----------|---|
| 繰 越 金 | 1,237,070 | 1,237,070 | 0 | 令和3年度より |
| 会 費 | 1,500,000 | 1,500,000 | 0 | 正会員 150人 学 部 (新 入 生) 104人 1,040,000円 〃 (在 学 生) 34人 340,000円 〃 (既 卒) 1人 10,000円 院 生 11人 110,000円 |
| 卒業・修了祝賀会当日会費納入分 | 75,000 | 0 | △ 75,000 | 新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止 |
| 雑 収 入 | 100 | 4 | △ 96 | 預金利息 |
| 計 | 2,812,170 | 2,737,074 | △ 75,096 | |

◎支出の部

(円)

| 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 | 摘 要 |
|-------------|-----------|---------|-------------|---|
| 弘前大学同窓会費 | 252,000 | 252,000 | 0 | 令和4年度負担金 |
| 印 刷 費 | 195,000 | 178,750 | △ 16,250 | 会報第23号 1,300部 |
| 卒業・修了祝賀会費 | 351,000 | 0 | △ 351,000 | 新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止 |
| 通 信 ・ 運 搬 費 | 50,000 | 37,882 | △ 12,118 | 加入案内送料(研究科新入生)(5,880円) 未加入者へ加入案内送料(学部4年)(31,582円) 会報送料他(420円) |
| 会 議 費 | 10,000 | 2,584 | △ 7,416 | お茶代 |
| 事 務 費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金 |
| 消 耗 品 費 | 20,000 | 15,236 | △ 4,764 | ラベル用紙、封筒他 |
| 郵便振替払込料 | 36,600 | 33,402 | △ 3,198 | 会費払込手数料 150人、郵送通知料金 63通 |
| 予 備 費 | 1,777,570 | 0 | △ 1,777,570 | |
| 計 | 2,812,170 | 639,854 | △ 2,172,316 | |

◆特別会計

| | | |
|------------|-----|------------|
| 収 入 | 支 出 | 繰 越 |
| 10,001,865 | 0 | 10,001,865 |

◎収入の部

(円)

| 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 | 摘 要 |
|-------|------------|------------|-------|---------|
| 繰 越 金 | 10,001,782 | 10,001,782 | 0 | 令和3年度より |
| 雑 収 入 | 200 | 83 | △ 117 | 預金利息 |
| 計 | 10,001,982 | 10,001,865 | △ 117 | |

◎支出の部

(円)

| 項 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差 額 | 摘 要 |
|-----------|------------|-------|--------------|-----|
| 特 別 事 業 他 | 0 | 0 | 0 | |
| 予 備 費 | 10,001,982 | 0 | △ 10,001,982 | |
| 計 | 10,001,982 | 0 | △ 10,001,982 | |

令和5(2023)年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

令和5年4月1日

◆一般会計

◎収入の部

(円)

| 項 目 | 予 算 額 | 前年度予算額 | 増 減 | 摘 要 |
|-----------------|-----------|-----------|---------|---|
| 繰 越 金 | 2,097,220 | 1,237,070 | 860,150 | 令和4年度より |
| 会 費 | 1,550,000 | 1,500,000 | 50,000 | 正会員 155人 × @10,000円 学 部 (新 入 生) 110人 〃 (在 学 生) 35人 院 生 10人 |
| 卒業・修了祝賀会当日会費納入分 | 75,000 | 75,000 | 0 | 30人 × @2,500円 |
| 雑 収 入 | 100 | 100 | 0 | 預金利息 |
| 計 | 3,722,320 | 2,812,170 | 910,150 | |

◎支出の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-----------|-----------|-----------|---------|---|
| 弘前大学同窓会費 | 252,000 | 252,000 | 0 | 令和5年度負担金 |
| 印刷費 | 210,000 | 195,000 | 15,000 | 会報第24号 1,300部×@150円 払込取扱票印字印刷代 @7.50×2,000部 |
| 卒業・修了祝賀会費 | 351,000 | 351,000 | 0 | 130人×@2,700円 |
| 通信・運搬費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 加入案内送料(研究科新入生) 100人×@120円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@140円 会報送料他(3,000円) |
| 会議費 | 10,000 | 10,000 | 0 | お茶代他 |
| 事務費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金 |
| 消耗品費 | 20,000 | 20,000 | 0 | ラベル用紙、封筒他 |
| 郵便振替払込料 | 37,000 | 36,600 | 400 | 会費払込手数料 155人×@200円 郵送通知料金 60通×@110円 |
| 予備費 | 2,672,320 | 1,777,570 | 894,750 | |
| 計 | 3,722,320 | 2,812,170 | 910,150 | |

◆特別会計

◎収入の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-----|------------|------------|----|---------|
| 繰越金 | 10,001,865 | 10,001,782 | 83 | 令和4年度より |
| 雑収入 | 200 | 200 | 0 | 預金利息 |
| 計 | 10,002,065 | 10,001,982 | 83 | |

◎支出の部

(円)

| 項目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-------|------------|------------|----|----|
| 特別事業他 | 0 | 0 | 0 | |
| 予備費 | 10,002,065 | 10,001,982 | 83 | |
| 計 | 10,002,065 | 10,001,982 | 83 | |

編集後記

平成17年度より幹事を務めております一條です。

1～2面の原田先生の記事から、何事においてもチャレンジ精神が大切であることを改めて実感いたします。また極地フィールドワークの専門家による地球温暖化に関する懸念は、一般の報道等より重みをもって感じられます。温暖化の影響に慣れることなく、危機意識の持続が肝要とのこと。令和6年末からの第66次南極観測における、温暖化解明に資する観測成果の獲得と、隊長としてのご活躍を祈念いたします。

3面の小野口先生のご寄稿からも、自動走行車両など進歩の著しい最先端技術に対して、やはりチャレンジ精神が大切であることが読み取れます。また、ご専門の車載画像認識研究とご趣味を兼ねた各地のドライブのお話に、風光明媚な北東北の風景が浮かび、心が和みます。

4～5面の佐川就職対策委員長のご寄稿に、採用活動に関して、対面形式の面接等が多くなってきたこと、求人が増えていること、選考時期の早期化による学業への懸念があること等の紹介がありました。またキャリアセンターならびに理工学部就職対策委員会による様々な取り組みをご紹介いただきました。早期化選考に伴う学業懸念の一方で、学業に真摯に取り組む学生の活躍を6面にてご覧いただけます。

今号でもまたコロナ禍に伴い、大変残念ながら卒業・修了祝賀会を中止とした旨を、5面下にてお知らせいたしました。

コロナ禍明けの動きが徐々に感じられるようになって参りました。コロナ制約前後の気付きやアイデアを踏まえた同樹会運営の新展開について、会員の皆様からお寄せいただけますと幸いです。

役員一覧

| | | |
|------------------|------------------|------------------------------------|
| 会 副 幹 | 会 長 事 | 千葉 信行 |
| | | 山上 佳男 |
| | | 早川 博文 (理工学部非常勤講師) |
| 監 査 | 査 長 | 一條 健司 (理工学研究科准教授) |
| | | 芹田 美穂子 (弘前大学生生活協同組合職員) |
| | | 須藤 勝弘 (総務部付技術専門職員・情報連携担当) |
| 名 譽 会 長 | 名 譽 会 長 | 荒木 宏孝 (理工学研究科教育研究支援室技術専門職員・副室長) |
| | | 岡崎 雅明 (理工学研究科長・理工学部長) |
| | | 佐藤 裕之 (前理工学研究科長) |
| 顧 問 | 顧 問 | 加藤 博雄 (元理工学研究科長、弘前大学名誉教授) |
| | | 宮永 崇史 (元理工学研究科長) |
| | | 吉澤 篤 (元理工学研究科長、弘前大学名誉教授) |
| | | 稲村 隆夫 (元理工学研究科長、弘前大学名誉教授) |
| | | (敬称略) |

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健司

住所：〒036-8561 弘前市文京町三

電話：0172-39-3660

E-mail : keng@hirosaki-u.ac.jp

URL: <https://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/>

